



# 東アジア共同体評議会会報

## The Council on East Asian Community Bulletin

Winter 2007 Vol.4 No. 1

### 東アジア・フォーラム 開催さる

11月22日、カンボジアのシエムリアップにおいて、東アジア・フォーラム(EAF)の第4回会合が開催された。EAFは、ASEANプラス3首脳会議の決定を受けて、2003年にソウルで第1回会合が開催された産・官・学の代表者から成るトラック1.5(半官半民)の会合である。

今次会合には、主催国カンボジアからハオ・ナムホン副首相兼外務国際協力大臣、カオ・キム・ホーン外務国際協力省長官ほか、またASEAN事務局からオン・ケン・ヨン事務総長が出席した。

日本からは、「産」を代表して当評議会副会長・経済人議員の井上明義三友システムアプレイザル社長が、「官」を代表して高橋文明在カンボジア大使が、また「学」を代表して当評議会副議長である杉内直敏日本国際フォーラム参加が出席した。事務局からも藤井美幸が出席した。なお、次回会合は日本で開催されることとなった。

### シエムリアップにて 「NEAT国別代表者会議」開催さる

「東アジア・フォーラム」とのバック・ツウ・バックで、11月20-21日にカンボジアのシエムリアップにおいて、「東アジア・シンクタンク・ネットワーク(NEAT)」の第6回「国別代表者(カントリー・コーディネーターズ)会議(CCM)」が開催され、日本からは杉内直敏当評議会副議長が出席した。

今次CCMでは、まず2007年夏にシンガポールで開催予定の第5回NEAT年次総会に向けて、右記の7つの作業部会(WG)の設置が承認された(括弧内はWG主催国)。



シエムリアップでの国別代表者会議の様子

- 文化交流(韓国)
- エネルギー安全保障(シンガポール)
- 金融協力(中国)
- 投資協力(中国)
- 共同体構築の全体構造(日本)
- 東アジア経済(日本)
- 移民労働(マレーシア)

また、2006年NEAT年次総会の「政策提言メモランダム」が、2006年12月のフィリピン・セブ島におけるASEANプラス3首脳会議に(トラック1.5から)提出される「唯一の文書」として公認された旨の報告がなされた。

なお、従来のNEAT運営においては、中国とタイが「インテリム・コーディネーター(IC)」として特別の責任と権限を与えられていたが、本年末にその任期が失効することに伴い、再度審議が行われた結果、ICの任期をさらに2年間延長することともに、中国とタイに加え、日本とマレーシアもまたICに就任することが決定された。

### 第18回政策本会議開催

11月7日、日本国際フォーラム会議室において「東アジア地域統合に向けた日本の経済戦略を考える」と題し、豊田正和経産省通商政策局長を講師に迎え、第18回政策本会議が開催された。豊田局長は、東アジア経済連携をめぐる動きについて、「東アジアは、世界最速のスピードで成長している世界最大



第18回政策本会議で議論を交わす議員たち(日本国際フォーラム会議室)

のマーケットであり、日本企業が不利な状況に陥らないためにも、日アセアン包括的経済連携協定を早く締結する必要がある。『東アジアEPA構想』については中韓が慎重な対応を示しているが、来年春には東アジア版OECDと呼ばれる『東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)』の設立を目指している。近い将来には米韓EPAの締結も予想されるが、これにともない今後はアジア・太平洋のEPAが進むだろう。しかし、同時にWTO交渉も進めていくことが重要である」との報告があった。

これに対し、出席した25議員からは、「日本の農業政策は大丈夫か」「APECのボゴール宣言はどうなったのか」等の鋭い質問が次々と出された。

### 東アジア共同体と米国

当評議会の政策研究プロジェクト「東アジア共同体構想とリージョナル・ガバナンス」は、昨年10月1日より第3年度に入っているが、日本側チーム・リーダーの田中明彦東大教授が、米国側カウンターパートのラルフ・コッサ・パシフィック・フォーラムCSIS理事長と緊密な連絡をとりながら、これまでの国際的研究活動の成果を総括し、2007年秋頃に米国CSIS Pressから英文商業出版を行なう予定である。

「米国を東アジア共同体構想のなかでどのように位置づけるか」というテーマは、他に類似の研究が存在しないこともあって、日米だけでなく、このプロジェクトに参加したアジア諸国でも、各方面から大きな関心が寄せられている。

# 『メルマガ東アジア共同体評議会』 創刊さる

当評議会は、さる11月15日に新しくインターネット・メディアの月刊紙『メルマガ東アジア共同体評議会』を創刊した。本メルマガは、当評議会の活動の最新状況を、広く当評議会内外の皆様に報告することを目的としており、創刊号は約1万名の登録者の皆様に配信された。創刊号では、「第4回NEATクアラルンプール総会開催さる」と「政策掲示板『百家争鳴』直近1ヵ月間の議論」の2つのニュースが配信された。

当評議会は、さる4月7日にそのホームページ上において「政策掲示板『百家争鳴』」を開設したが、今回創刊された『メルマガ東アジア共同体評議会』は、「政策掲示板『百家争鳴』」で

行われている最近1ヶ月間の東アジア共同体構想や東アジア情勢をめぐる活発な議論の全容をお伝えしている。最近1ヶ月間の投稿の見出し、投稿者名、肩書きなどを詳細に報じており、「政策掲示板」と「メルマガ」の両者の相乗効果が期待されている。

メールアドレスをお持ちの方であれば、どなたでも『メルマガ東アジア共同体評議会』の新規配信を受けることができる。もちろん購読料は無料で、毎月20日に発行する。新規配信の登録をご希望の方は、東アジア共同体評議会のホームページ(<http://www.ceac.jp>)の『メルマガ東アジア共同体評議会』配信登録欄にアクセスしてほしい。

## 9-11月の「百家争鳴」

本『会報』前号で4-8月の政策掲示板『百家争鳴』の模様をお伝えしたが、その後の9-11月には58通の投稿が寄せられ、東アジア共同体構想、中国外交、東アジア通貨制度、APECの評価などをめぐって活発な議論が交わされた。そのうちの主なものについて、投稿日、テーマ、投稿者名を下記のとおり紹介する。<http://www.ceac.jp>にアクセスしていただきたい。

- 11/17 「東アジア共同体、どこまで可能か？」(鈴木馨祐)
- 11/10 「中国外交は21世紀東アジアのビスマルク外交か」(滝田賢治)
- 11/9 「東アジア共同体形成の鍵を握る理想の共有」(市村真一)
- 11/4 「岡倉天心アジア大賞の創設を提案する」(山下英次)
- 10/25 「農民の苦悩を踏まえた農業改革論議を」(長岡昇)
- 10/18 「『連携こそ力である』の実践を」(進藤榮一)
- 10/6 「アジアにとって『国家』とは何なのか？」(河東哲夫)
- 9/28 「東アジアでスパゲティ・ボウル現象は起こりうるか」(木村福成)
- 9/11 「人民元改革とアジア経済」(村上正泰)
- 9/7 「日本人同士で日本人の思惑だけで議論しても始まらない」(山澤逸平)

## 国際政経懇話会

第186回「国際政経懇話会」は、谷内正太郎外務事務次官(写真)を講師に迎えて、9月12日に開催された。「中韓両国とは問題解決の『ルール』を構築している段階だ。東アジアは民主国家に限られており、もっと開かれた議論をする必要がある」等のご講話を伺った。



### ■新規入会議員の紹介 (9-11月分、入会順)

#### 【有識者議員】

- 白石 さや 東京大学大学院教授
- 近藤 正規 国際基督教大学準教授
- トラン・ヴァン・トゥ 早稲田大学教授
- 岩淵 功一 早稲田大学助教授
- 渡辺 頼純 慶應義塾大学教授
- 竹内佐和子 京都大学客員教授

### ■新規就任参与の紹介 (9-11月、就任順)

- 北村 俊昭 経済産業省経済産業審議官
- 瀬山 賢治 文部科学省国際統括官

### — 謝 辞 —

東アジア共同体評議会の諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人議員の納入する賛助会費にあります。現時点における当評議会経済人議員は、下記名簿記載の15社15口です。ここに特記して謝意を表します。

- オムロン株式会社
- オリックス株式会社
- 株式会社伊藤組
- 株式会社三友システムアプレイザル
- 株式会社電通
- 山九株式会社
- 新日本製鐵株式会社
- 住友商事株式会社
- セイコーエプソン株式会社
- 東京電力株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 松下電器産業株式会社
- 三井物産株式会社
- 三菱商事株式会社
- ありがとう基金

[入会順]

## CEAC 活動日誌 (9-11月)

- ◇9月12日第186回国際政経懇話会(谷内正太郎外務事務次官他32名)
- ◇9月27日第23回外交円卓懇談会(Jennie Chok 香港駐東京代表他13名)
- ◇9月29日第2年度第3回「地域秩序」研究会(田中明彦リーダー他5名)
- ◇10月16日第187回国際政経懇話会(山内昌之東京大学教授他21名)
- ◇11月7日第18回政策本会議(豊田正和経済産業省通商政策局長他24名)
- ◇11月10日第24回外交円卓懇談会(Werner Kaspar 国際赤十字代表他8名)
- ◇11月15日『メルマガ東アジア共同体評議会』創刊
- ◇11月17日第188回国際政経懇話会(北岡伸一前国連代表部大使他22名)
- ◇11月20-21日第6回NEAT国別代表者会議参加(杉内直敏当評議会副議長他1名、シエムリアブ)
- ◇11月22日第4回「東アジア・フォーラム」(EAF)出席(井上明義当評議会副会長、杉内副議長他1名、シエムリアブ)
- ◇11月29日第25回外交円卓懇談会(Solmaz Ünaydin トルコ大使他13名)



## 東アジア共同体評議会会報 2007年冬季号

The Council on East Asian Community Bulletin

発行日 2007年1月1日

発行人 伊藤 憲一

編集人 藤井 美幸

発行所 東アジア共同体評議会 〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301

Tel : 03(3584)2193 / Fax : 03(3505)4406 / E-mail : [ceac@ceac.jp](mailto:ceac@ceac.jp)(代表) / URL : <http://www.ceac.jp/>